

## 2008 年第 14 回 APLAC 総会及び関連会議報告

2008 年 12 月

独立行政法人 製品評価技術基盤機構  
認定センター (AJapan)

2008 年 12 月 6～12 日にシンガポールにおいて、アジア太平洋試験所認定協力(APLAC)の年次総会及び関連委員会が次の日程で開催されました。当認定センター (AJapan) から 4 名が参加した他、日本からは、(財)日本適合性認定協会(JAB)、(株)電磁環境試験所認定センター(VLAC)及び日本化学試験所認定機構(JCLA)が参加しました。

### APLAC 会議日程

	午前	午後
2008 年 12 月 6 日(土)	理事会	
7 日(日)	理事会	
8 日(月)	技術委員会	
	広報委員会	
9 日(火)	技能試験委員会	
	研修委員会	
10 日(水)	相互承認評議会	
11 日(木)	相互承認評議会	総会
12 日(金)	総会	

各会議の議事概要は以下のとおりです。

#### ■ 総会

##### ➤ 参加者

メンバーである 26 カ国/地域 43 機関のうち 21 カ国/地域 38 機関からの代表約 110 名が参加した他、APMP (アジア太平洋計量計画)、EA (欧州認定協力機構)、PAC (太平洋認定協力)及び PTB (ドイツ連邦物理技術研究所)の代表が出席しました。

##### ➤ APLAC メンバー

INDECOPI (ペルー、認定機関)が正会員として、また、PTA (オーストラリア、技能試験プロバイダー)及びFHI (タイ、トレーニングプロバイダー)が準会員として承認されたことが報告されました。これにより APLAC フルメンバーは 25 カ国/地域 37 機関となり、また、準メンバーは 6 機関となりました。

なお、APLAC メンバー要件をこれまで原則として APEC の国/地域に制限していましたが (例外有り)、今後は中央アジア等の地域からの加盟申請を受け付けることとなりました。

➤ **標準物質生産者認定分野の相互承認**

APLAC においては 2007 年から標準物質生産者 (RMP) 認定分野の相互承認 (MRA) が開始されていますが (現在 IAJapan を含む 5 機関が MRA に加盟)、ILAC (国際試験所認定協力機構) においては依然準備段階にあり、国際的な相互承認が開始されるまで後数年かかる見込みです。こうした状況から、APLAC では APLAC メンバー以外の認定機関との 2 者間 MRA を締結していくことが合意されました。

➤ **役員の変更**

2008 年末に APLAC 議長、APLAC 相互承認評議会議長、APLAC 理事 (3名)、研修委員会委員長、技術委員会委員長、技能試験委員会委員長、広報委員会委員長の任期が満了となることから役員の改選が行われ、次のとおり新役員 (任期 2009 年 1 月から 2 年間) が選出されました。

APLAC 議長：Terence Chan (HKAS, 香港) 再任

理事：Vu Xuan Thuy (BoA, ベトナム) 新任

理事：Regina Robertson (NATA, オーストラリア) 再任

理事：Roxanne Robinson (A2LA, アメリカ) 再任

相互承認評議会議長：Barry Ashcroft (IANZ, ニュージーランド) 再任

技術委員会委員長：Trace McInturff (A2LA, アメリカ) 新任

技能試験委員会委員長：Dan Tholen (A2LA, アメリカ) 新任

研修委員会委員長：Zhang Mingxia (CNAS, 中国) 新任

広報委員会委員長：Alan Patterson (NATA, オーストラリア) 新任

(注) 2010 年 12 月末まで任期のある理事は、瀬田 勝男 (IAJapan、日本)、Nigel Jou (TAF、台湾)。

➤ **APLAC 戦略的プラン**

APLAC が 2 年後、5 年後、10 年後を見据えた戦略的な活動計画を定めていくこととなりました。基本的な活動方針としては、以下の 4 項目が示されました。

APLAC メンバーと利害関係者間で必要な情報交換、協議、相互協力を行う場の提供

APLAC メンバー間で相互評価、技能試験、研修等の協力を通じて認定水準の向上

相互承認の発展と利用促進

類似の目標を持つ他機関との協力

また、2 年後の短期的な目標としては、APLAC の国際的な影響力増大と認定分野開拓でのリーダーシップ発揮等が示されました。

➤ **各委員会の活動報告**

相互承認評議会、技術委員会、技能試験委員会、研修委員会、広報委員会の各々の議長から今年 1 年間の活動報告がありました。

➤ **他の関連国際機関との協力 情報交換**

アジア太平洋経済協力/基準 適合性小委員会 (APEC/SCSC)、アジア太平洋経済協力/電気通信・情報作業部会 (APEC/TEL WG)、ヨーロッパ認定協力機構 (EA)、南北アメリカ協力機構 (AAC)、アジア

太平洋計量計画(APMP)、アジア太平洋法定計量フォーラム (APLMF)、太平洋認定協力 (PAC) 等の活動に関する報告があり、情報交換が行われました。

## ■ 相互承認 (MRA) 評議会

### ➤ MRA の承認

ACLASS (アメリカ) の標準物質生産者分野 (ISO Guide 43) への MRA 拡張、NABL (インド) の医療試験所分野 (ISO 15189) への MRA 拡張が承認されました。

また、PAO (フィリピン) は 2008 年 6 月から MRA の一時停止となっていましたが、一時停止の解除が決定されました。

### ➤ MRA 一時停止等の手続き

IAJapan の瀬田所長が主査を務める MRA 文書化作業グループから MRA の一時停止の手続きを明確化するため MRA 文書の改正に関する提案が行われました。

## ■ その他関連委員会

### ➤ 技術委員会における作業グループの設置

試験分野の不確かさの見積もりに関するガイドライン (APLAC TC 005) の見直しを実施するため、暫定的な作業グループ (WG) が設置されることとなりました。当該 WG の主査に植松 慶生 (JAB、日本) が、また WG メンバーに剣持 昌之 (AJapan、日本) が指名されました。

### ➤ APLAC 技能試験の提供

2009 年新たに、電磁妨害試験、圧力校正などを含む 11 の技能試験プログラムを提供することが決定されました。

### ➤ 認定関係の研修

技能試験プロバイダー (PTP) の分野に MRA が拡張されることから 2009 年 PTP の認定に関する研修をアメリカ (フレデリック) で、また、医療試験所の認定に関して APLAC メンバー間の更なる整合化を図るため 2009 年ニュージーランド (オークランド) で研修を開催することとなりました。

### ➤ 広報活動

APLAC MRA のより一層の活用促進を図るため、様々な広報ツールが検討されました。特に、規制当局により MRA の受入れが図られている機関の経験を APLAC メンバー間で共有すべく活動していくことが確認されました。

### ➤ 次回の総会及び関連会議

次回総会は、2009 年 12 月にインドネシアで開催されることが確認されました。なお、2010 年は日本、2011 年はフィリピンで開催される予定です。

また、次回 MRA 評議会は 2009 年 5 月に香港で開催されることとなりました。

以上